発刊に寄せて

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

新経営研究会が発足三十周年記念事業として発刊いたしました「FMTアーカイブ」も、早いもので、この巻でご高評裡に第十巻目を迎えます。

このFMTアーカイブは、新経営研究会が発足した一九八二年十一月から二〇一四年十二月に至る三十二年間に、本会でご披瀝いただいた「わが国を代表する画期的イノベーションの事例（八〇〇強）」から、先ずは五十事例を取り上げさせていただき、二〇一一年十一月から隔月で三年間、原則として一巻に三事例（年一回一事例）を収録して刊行し、わが国における画期的イノベーションの感動の記録として、後世に、また広く世界に伝えていこうと願うものです。

これらはいずれも、幾多の難関を突破して、遂にブレークスルーを成し遂げたご本人の夢と苦闘の軌跡を、その背後にあった思いと基本的考え方と共に、ご本人ならではのご体験を通して、忌憚

なくご披露いただいた、正に日本の「イノベーション」の生きた軌跡、歴史を伝える感動の記録です。ここに取り上げられる事例は、①日本を代表する画期的技術・製品・事業開発、②企業の存亡を懸けて取り組まれた企業革新、③人類の新たな夢と可能性を開いた、未踏・未知の世界への挑戦、④日本文化の根底に流れる精神と美意識が生み出す、日本ならではの「ものづくり」と事業展開、⑤異文化間で成し遂げられた創造的共創などで、その内容は①その挑戦はどのようにして始まったか②ブレイクスルーに至る途上で、如何なる山や壁、危機に直面したか。また、それらをどのようにして乗り越えたか③そのイノベーションをブレイクスルーに導いたものは何であったか、で構成されています。

独創やイノベーション、創造的風土とは如何に生まれ、如何に実現されるものなのか。経営とは、事業とは何か。ここにはその原点を噛み締め、深く考えさせる、汲めども尽きない示唆があります。私たちは今、アジア・南米・アフリカなど新興経済国の画期的台頭と世界の産業構造・経済地区の歴史的变化、併せて科学・技術主流の一大転機、環境・エネルギー・資源・食料・健康・人間と文化に関わる根本問題など、新たな二十一世紀の課題に直面しています。日本は再び日本の「技術力」と「ものづくり力」をグローバルリーダーシップと競争力に結びつける、イノベーションを求められています。

と同時に、今日私たちは、わが国の文化の根底に流れるわが国独自の世界観と価値観、美意識を今日の世界に発揚、輝かせ、今日の世界に貢献出来るわが国ならではの道を求めて行かなくてはならない、と強く考えております。

このような今日、このFMTアーカイブに収録された数々の挑戦の記録が、今日の私たちにどれほど大きな感動を与え、今後への指針と希望を拓く掛け替えのない糧となるか、計り知れませんが、

そして、日本の画期的イノベーションの中核となったご本人のご体験を通して、日本の「技術開発」と「ものづくり」、そしてイノベーションの生きた現実の経緯を広く世界に知っていただくことは、日本に対する更なる世界の理解と信頼を得る、掛け替えのない架け橋となると信じます。

この「FMTアーカイブ」が日本の希望と誇りを呼び起こす松明となり、次の世代に手渡されて行くことを願うものです。

末尾ながら、この度の「FMTアーカイブ」の発刊に当り、自らのイノベーションへの挑戦とそのブレイクスルーへのご体験をここに収録させていただいたご発表者各位、また、それを快くお認めいただいた関係企業・組織各位に対し、改めて深甚の感謝の念を表します。

そして、今回の構想の実現に当っては、東京大学名誉教授 和田昭允先生他、極めて多くの方々より身に余るご支援と激励をいただき、放送大学名誉教授 森谷正規先生には、その発刊の中核となっていたいただきました。ここに、改めて、深甚の感謝の念を表します。

そして、今は故人となられた方々を含め、新経営研究会の発足に際してその支柱となっていたいた弊会発起人の方々、歴代の世話人・フェローの方々、そして産業と分野を横断する広い分野からご参会いただき、ご支援いただいで参りました皆様方へ、関係者一同、心からの御礼を申し上げます。次第です。

最後に、これまで心を尽くして共に歩んで来てくれた秋山靖枝、田中智子、そしてかつて新経営研究会を支えてくれた山下（旧姓二万田）智代、馬場節子、竹田恭子の方々に、心からの感謝を捧げます。君たちがいなくなったら今日の新経営研究会はなかった。ありがとう。

二〇一四年正月

新経営研究会 代表 松尾 隆

新経営研究会とは

新経営研究会は、一九八二年十一月、同志が相語らい、わが国企業の主として、技術・製品開発とものづくりの第一線で指導的立場にある方々が、イノベーションをテーマに、産業・分野横断的に交流、相互啓発し合う場の必要を痛感して発足した集りです。

今日では各企業の経営者層・技術系幹部の方々にとどまらず、未踏・未知の領域に挑む最先端の科学・技術者、現代の匠、今日の文化形成に深く関わっている方々など、内外の広い分野の方々のご参加を得て、今日におけるそれぞれのヴィジョンと挑戦的試みを交流し、感動的出会いの下、今後の指針と勇気を拓き、あわせて交友範囲の拡大の場となることを願って活動しています。

(<http://www.shinkeiken.com/>)